

みなさまの声や思いを力タチに！



宇治市議会議員

中村 まいに

議会
報告

Vol.19

自民党宇治市会議員団 総務常任委員会、議会運営委員会、広報委員会



ごあいさつ

みなさまにおかれましては、新型コロナウイルスの感染症に伴い、4月16日に緊急事態宣言がなされ、日々感染拡大防止に努めて頂いていることと思います。このような事態に宇治市議会でも迅速に対応しております。未曾有の事態でありますことから、みなさまの声をお寄せ頂き、一緒にこの難局を乗り越えていきたいと思います。

臨時議会において、
補正予算(新型コロナウイルス感染症緊急経済対策)
可 決

自民党宇治市会議員団として、令和2年4月20日、市に対して緊急要望を行いました。今回の新型コロナウイルスの感染緊急経済対策、特に宇治市独自支援策についてはその要望を取り入れ、「事業者おうえん給付金」が創設されました。

財政調整基金の積極的な活用等、このような未曾有の事態だからこそ積極的な支援策を講じる必要があることを国、府、市それぞれに対し継続的に求めていきます。



活動のご報告



市に提出した緊急要望書の内容です。

緊急要望書

宇治市長 山本 正 殿

全国各地で新型コロナウイルスの感染が広がり、令和2年4月7日には7都府県に、また同年4月16日にはその他の40都府県に対し、国から緊急事態宣言が発出され、京都府は「特定警戒都道府県」に指定されました。各都道府県においては自粛要請とともに独自の支援策が講じられているところであります。日々刻々と状況が変化し、市民の方々からは不安、心配等の声が途切れることなく、私共自民党宇治市会議員団としても、この未曾有の状況を市民のみなさまと共に打開し、この難局を乗り越えた暁には活力と潤いのあるまち宇治市を更に発展させるべく、「個」に応じた支援策として以下に緊急要望をいたします。

[財政]

一、市においてはこのような未曾有の状況を鑑み、財政調整基金を積極的に活用し市民のみなさまが安心できる支援策を講じること

[市民生活]

一、ホームページの迅速な更新や紙媒体での新型コロナウイルス支援策など、多様な市民が受け取りやすいような情報発信に努めること
二、市中で不足しているマスク、消毒液などは市民生活に不可欠であることから国府への要望に加え、事業者等への協力を要請すること
三、新型コロナウイルス対策についての市役所での相談窓口を一元化すること
四、市の所管である税・料・公共料金(固定資産税、国民健康保険料、保育料、水道料金等)の支払いを猶予すること

[産業]

一、事業者の負担している家賃につき、上限10万円までの補助を行うこと
二、宇治市の代表的な産業である茶業につき、昨年並みの茶価の維持をはじめ業界団体との意見交換を行い、茶業の衰退防止を行うこと
三、大規模・中規模事業所のみならず、市内には多くの個人事業主が存在していることから個人事業主の声にも耳を傾け支援策の充実に努めること

[教育]

一、学校再開については、子どもの命を最優先し、慎重に判断すること
二、一人一台PC又はタブレット端末の整備が閣議決定されており、宇治市も早急な整備に取り組んでいるところ、オンラインでの教材配信を行い、在宅学習の充実を図ること
三、FMうじを活用して小中学生向けのラジオ講座を行うこと



上記の要望の結果として、幅広い業種で幅広い支援のできる
「事業者おうえん給付金」が創設されることになりました。
※減収要件はありません。

【給付対象】

- ①卸売業、小売業、飲食業
- ②認定農業者等
- ③上記以外の業種で京都府から休業要請に協力する者

【給付内容】

個人事業主 10万円 中小企業・団体 20万円



分からぬこと、困っていること、相談したいこと、
私におしえてください。
あなたの声を届けていきます。
あなたの思いをカタチにしていきます。

おしえてください



「中村まいこ」で検索して、日頃の活動をチェックしてください。

はじめました

LINE@ 右側のQRコードを利用してお友達追加してください ⇒
市政の情報発信をしています。



一般質問

毎回欠かさず行っている一般質問。3月定例会では「障害者施策の推進」「安心安全なまちづくり」「子育て支援」について質問を行いました。

質問の一部を以下にご報告します。

一般質問の様子はホームページから⇒



視覚障害者支援

市政だより等の音訳事業について、財政の問題でもなく視覚障害者の読者環境を整える必要性も理解しているならすぐにでも事業化できるはず。是非早期の事業化を求める。

先天的に目の不自由な方は色がイメージすることが困難であり、ではどうやって洋服などを選んでいるかというと、関わってくださる方が似合っていると言ってくださった服などとして区別をなさっていること。人が関わることの大切さを念頭におく必要がある。また、視覚障害者のために音訳事業があることをもっと広報に力を入れて頂きたい。医師会にもご協力頂き眼科にも広報物を置いていただくなど障害があることで孤立しないような手立てを。

産後2週間検診の助成

妊娠中と産後1年未満の主な死亡原因の中で最も多いのは自殺。その多くが産後うつをはじめとする精神疾患である。児童相談所における児童虐待相談対応件数は年々増加しており、虐待による子供の死亡事例の約半数もまた産後うつをはじめとする精神疾患の診断がある状況である。

そこで重要視されるようになったのが産後2週間検診であり、産後うつの疑いの人の割合は産後2週間がピークとなっているからである。厚労省による産婦健康診査事業が開始され、国が産後2週間検診と1ヶ月検診の費用の1／2の助成をするようになった。京都府でも多くの市町村で補助がある中で宇治市ではまだできていない状況。

平成30年度の3ヶ月検診の対象人数は約1200人。1人あたり3000円の助成をしたとしても360万円、これを初産の妊婦にすれば更に財政負担は軽減できるものと考える。早急の整備を強く求める。

予算委員会

予算委員として令和2年度予算について審議をしました。

初当選来求めてきたひきこもり相談窓口の創設、生活困窮世帯の学

習支援の拡充、「思いがカタチ」になった予算でもありました。

ご支援を頂き力タチになりましたことへの感謝の気持ちと更なる充実

に向けて精進していきます。



令和2年度 一般会計当初予算 627億円を可決

主だった予算

- ・防災・防犯カメラ設置事業
 - ・集会所耐震改修事業費
 - ・産業交流拠点整備事業費
 - ・福祉タクシー・ガソリン料金助成事業費
 - ・西小倉地域小中一貫校整備検討事業費
 - ・宇治茶商標関連対策事業費
 - ・植物公園魅力増進推進費
 - ・ひきこもり相談窓口の創設
 - ・生活困窮世帯の学習支援の拡充



※青字はこれまで様々な機会で求めてきたもので
予算化されました。

中学生の学習支援拡充

以前から求めていた中学生の学習支援の拡充。令和2年度当初予算が計上され、その後、地元の大久保青少年センターで行われることが決まりました。

全ての子どもたちが等しく学習の機会を守れるよう、これからもその充実を訴えていきます。



中村まいこの予算に対する思い

今回の予算案に対し、私たちも推し進めてきた中学校給食の実施、西小倉地域における小中一貫校に加え、防災減災に関する費用及びひきこもりや生活困窮世帯への支援等が含まれていること、そして何より昨今の新型コロナウイルスの感染拡大防止に市全体として力を尽くしていく中で、ただただ反対ばかりをするではなく、本予算案を成立させ、その上で私たちの思うまちのあり方を実現していく方がよい。予算委員会でも指摘をしたが、新型コロナウイルスの地域経済に対する影響は大きく、財政見通しがさらに厳しいものになると予想される。その上で、宇治市としてどのような支援策を講じができるかで将来の展望が大きく左右されることになると考えられることから、地元企業への支援をはじめ多くの声に耳を傾け、施策の充実に努めて頂くことを強く求めるものである。